ボーリング柱状図

調　査　名　海部高等学校教室棟新築その他工事の地質調査

ボーリングNo.

事業・工事名

シートNo.

ボーリング名	Bor.No.1	調査位置	海部郡海南町（海南高等学校敷地内）					北緯			
発注機関	徳島県県土整備部営繕課			調査期間	平成 15年 11月 21日 ～ 16年 1月 15日			東経			
調査業者名	株式会社 ツウラ林建 電話（0883-636-5155）	主任技師	奥村等	現場代理人	井上善司	コア鑑定者	奥村等	ボーリング責任者	藤本茂春		
孔口標高	KBM -0.05m	角度	上 90° 下 0°	方向	北 0° 西 270° 東 90° 南 180°	地盤勾配	鉛直 90° 水平 0°	使用機種	試錐機	吉田鉄工所YBM-05DA	ハンマー落下用具	ユビロンファクト自動
総掘進長	20.50m								エンジン	ヤンマーNFAD-7	ポンプ	YBM SP-30

標尺 (m)	標高 (m)	層厚 (m)	深度 (m)	柱状図	土質区分	色調	相対密度	相対稠度	記事
	-0.35	0.30	0.30		礫	褐灰			盛土。礫主体で、木片等混入。
						暗灰			当層より自然地盤。
1									0.00～1.00m、埋設管等の有無確認のため、手掘りした。
									全体的に礫が大半を占めているが、粒径区分に多少のバラツキが認められる。
2									φ=5～15mmぐらい、Maxφ=30～40mmぐらいの礫主体で、マトリックスは砂が大半であるが少ない。
3									礫種は、大半が砂岩で、泥岩、チャートも微量認められる。
									礫形は、亜円～円礫で、卵形あるいはそれを扁平状にしたものが主体である。
4									礫は中風化～弱風化程度である。
5									
6									5.00m付近以浅、礫やや大きい。
7									
8									5.00～10.00m付近、礫やや小さい。
9									
10					礫	褐灰			
11									
12									10.00～19.50m付近、礫やや大きい。
13									
14									
15									
16									
17									
18									
19									19.50m付近以深、礫小さくなり、マトリックスはシルト分主体となる。
						暗灰			3.50m付近以浅、含水量は中程度で、以深多くなる。
20	-20.55	20.20	20.50						

孔内水位(m)／測定月日	標準貫入試験 深度 (m)	10cmごとの打撃回数 0～10	10～20	20～30	打撃回数／貫入量 (cm)	N値 0 10 20 30 40 50 60
	1.15	5/11	5	4/9	14/30	14
	1.45 2.15	8/11	8/9	10	26/30	26
	2.45 3.15	8	9	10	27/30	27
	3.45 4.15	9	10	10	29/30	29
5.20 ▽	4.45 5.15	10	11	13	34/30	34
	5.45 6.15	13	15	17	45/30	45
	6.45 7.15	10	11	9	30/30	30
	7.45 8.15	12	12	12	36/30	36
	8.45 9.15	12	15	15	42/30	42
	9.45 10.15	16	12	12	40/30	40
	10.45 11.15	11	16	20	47/30	47
	11.45 12.15	12	12	11	35/30	35
	12.45 13.15	12	11	11	34/30	34
	13.45 14.15	10	13	11	34/30	34
	14.45 15.15	11	11	10	32/30	32
	15.45 16.15	14	15	16	45/30	45
	16.45 17.15	13	14	14	41/30	41
	17.45 18.15	16	15	15	46/30	46
	18.45 19.15	10	11	9	30/30	30
	19.45 20.15	8	9	11	28/30	28
	20.45					

原位置試験 深度 (m)	試験名および結果

試料採取 深度 (m)	試料番号	採取方法	室内試験（ ）	掘進月日
1.00	P-1	○	粒度	
1.50 2.00	P-2	○	粒度	
2.50 3.00	P-3	○	粒度	
3.50 4.00	P-4	○	粒度	
4.50 5.00	P-5	○	粒度	
5.50 6.00	P-6	○	粒度	
6.50 7.00	P-7	○	粒度	
7.50 9.00	P-8	○	粒度	
9.50 11.00	P-9	○	粒度	
11.50 13.00	P-10	○	粒度	
13.50 15.00	P-11	○	粒度	
15.50 17.00	P-12	○	粒度	
17.50 19.00	P-13	○	粒度	
20.00				

ボーリング柱状図

調　査　名　海部高等学校教室棟新築その他工事の地質調査

ボーリングNo.

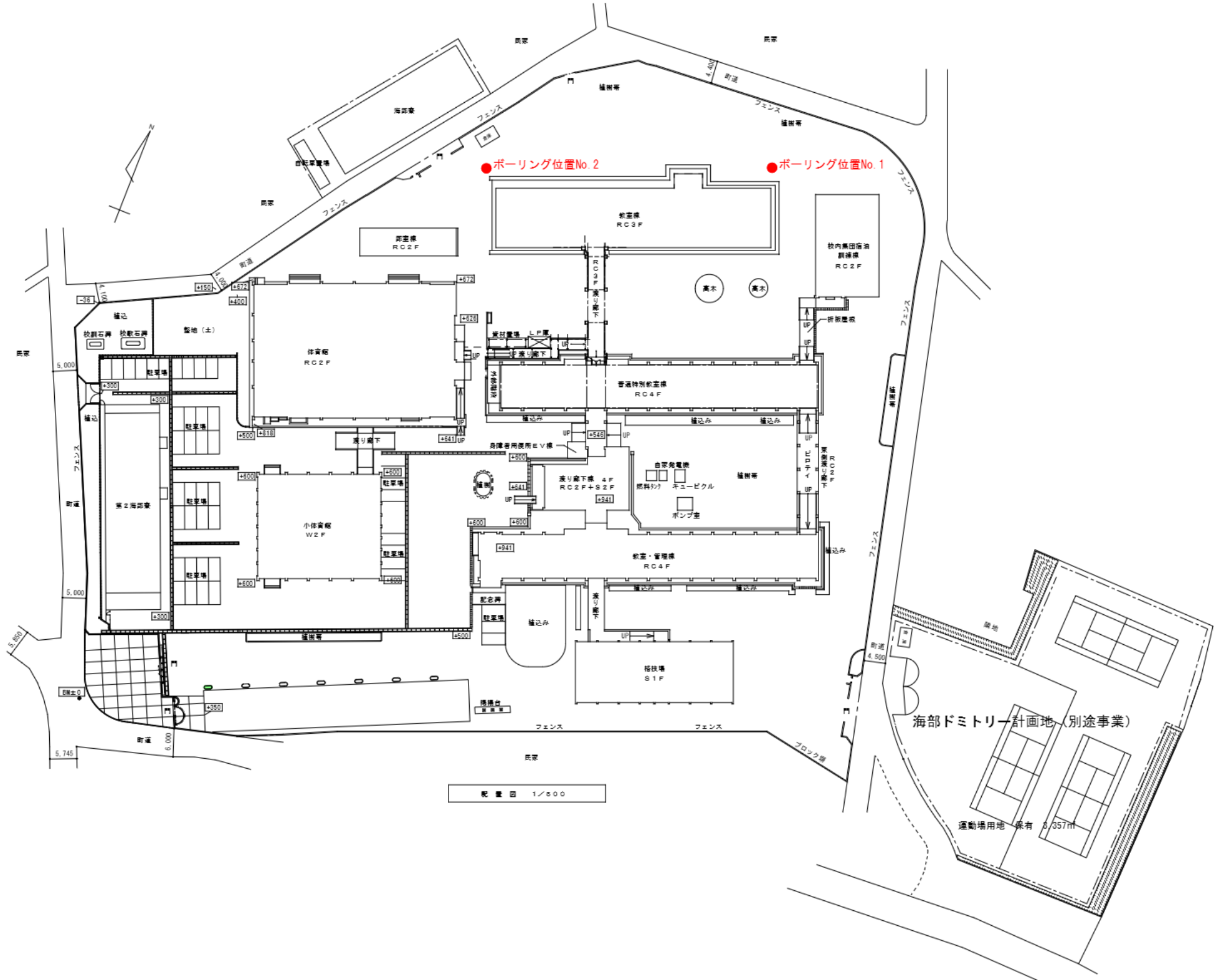
事業・工事名

シートNo.

ボーリング名	Bor.No.2	調査位置	海部郡海南町（海南高等学校敷地内）					北緯	
発注機関	徳島県県土整備部営繕課			調査期間	平成 15年 11月 21日 ～ 16年 1月 15日			東経	
調査業者名	株式会社マツウラ林建 電話（088-636-5155）	主任技師	奥村等	現場代理人	井上善司	コア鑑定者	奥村等	ボーリング責任者	後藤文明
孔口標高	KBM -0.35m	角度	180° 上 下 0° 90°	方向	北 0° 270° 西 90° 東 180° 南	地盤勾配	水平 0° 鉛直 90°	使用機種	試錐機 吉田鉄工所YBM-05DA / ハンマー落下用具 ユピロンファクト自動
総掘進長	10.50m								エンジン ヤンマーNFAD-8 / ポンプ YBM BP-5

標尺 (m)	標高 (m)	層厚 (m)	深度 (m)	柱状図	土質区分	色調	相対密度	相対稠度	記事
	-0.45	0.10	0.10		コンクリート	灰			床固めのコンクリートである。
	-0.85	0.40	0.50		礫	灰			盛土。礫主体。
1									当層より自然地盤である。
2									0.00～1.00m、埋設管等の有無確認のため、手掘りとした。0.30～0.40m付近に埋設管があり、孔位置をずらした。
3									全体的に礫が大半を占めており、粒径区分おおむね均一である。
4									φ=5～15mmぐらい、Maxφ=30～40mmぐらいの礫主体で、マトリックスは砂が大半で、少ない。
5					礫	褐灰			礫種は、大半が砂岩で、泥岩、チャートも微量認められる。
6									礫形は、亜円～円礫で、卵形あるいはそれを扁平状にしたものが主体である。
7									礫は中風化～弱風化程度である。
8									4.50m付近以浅、含水量は中程度で、以深多くなる。
9									
10	-10.85	10.00	10.50						

孔内水位(m)／測定月日	深度 (m)	標準貫入試験 10cmごとの打撃回数 0～10	10～20	20～30	打撃回数／貫入量(cm)	N値 0 10 20 30 40 50 60	原位置試験 深度 (m)	試験名および結果	試料採取 深度 (m)	試料番号	採取方法	室内試験（ ）	掘進月日
	1.15	6	6	8	20/30	20			1.00	P-1	⊖	粒度	
	1.45 2.15	7	8	8	23/30	23			1.50 2.00	P-2	⊖	粒度	
	2.45 3.15	7	9	10	26/30	26			2.50 3.00	P-3	⊖	粒度	
	3.45 4.15	9	12	13	34/30	34			3.50 4.00	P-4	⊖	粒度	
4.50 ▽	4.45 5.15	12	12	13	37/30	37			4.50 5.00	P-5	⊖	粒度	
	5.45 6.15	9	9	11	29/30	29			5.50				
	6.45 7.15	11	13	14	38/30	38			7.00	P-6	⊖	粒度	
	7.45 8.15	12	14	14	40/30	40			7.50				
	8.45 9.15	10	11	14	35/30	35			9.00	P-7	⊖	粒度	
	9.45 10.15	11	12	12	35/30	35			9.50				
	10.45												


●ボーリング位置No.2
●ボーリング位置No.1
教室棟
RC3F
即室棟
RC2F
校内集団宿泊
訓練棟
RC2F
体育館
RC2F
普通特別教室棟
RC4F
渡り廊下棟 4F
RC2F+S2F
教室・管理棟
RC4F
第2海部寮
小体育館
W2F
格技場
S1F
自家発電機
燃料タンク
キュービクル
ポンプ室
身障者用便所EV棟
駐車場
植込
植込み
植栽帯
フェンス
ブロック塀
町道
民家
海部寮
自転車置場
整地（土）
校訓石碑
校歌石碑
折板屋根
高木
隣地
海部ドミトリー計画地（別途事業）
運動場用地（保有 8,357㎡）
配置図 1／500